

## 平和とはなんなのか

伊勢原中学校 齋藤 優衣

平和とはなんなのか。戦争が起こらなければ平和なのだろうか。武器の数が0なら平和なのだろうか。平和の基準は人それぞれだと思う。

私の考える「平和」は、戦争が起きないことだ。正直「平和」について深く考えたことがない。だがそれについて考えるようになったきっかけをくれたのは「広島」だった。私は去年の春休み家族で広島に旅行にいった。広島に行き初めて戦争の恐ろしさを知った。原爆ドームと平和記念資料館へ私は、足を運んだ。原爆ドームは夜に行ったのもありより怖さが増していた。その場所には建物についての説明や元々の写真がのっていた。建物は、壁が壊れ、ドームのところがてっこつのみになっていた。それをみた瞬間一気に怖くなり、「戦争」という言葉が頭をよぎった。今までは教科書にのっている写真しか見たことがなかったためとても驚いた。戦争とは、こんなに恐ろしいものなのか。いったいこの場所で何万人、何十万人の方が亡くなったのか。たった一つの武器でこんなにも多くの人々の大切な命を奪ってしまう。本当に恐ろしいと思った。だが今では、その周りには桜が咲き電車もはしり、町にはとても活気があった。まるで何事もなかったかのように。この状態になるまで何万人の人々が努力したのだろうか。人間の立ち直る姿にもひどく驚かされた。一度挫折し、未来がみえなくなっても立ちあがり自分たちの力で未来をきりひらいていくという強い心も育まれたのではないだろうか。そして、平和記念資料館では、色々なものをみたりきいたりした。私が今でも鮮明に覚えているのは、実際に被爆した方の話だ。川や海には熱い体をさまそうとした人が何万人もいたそうだ。その中には、もう亡くなっている人もおり死体が浮いていたそうだ。その話をきいたとき本当に心がいたんだ。なぜ罪のない人たちがこんなつらい思いをしなければならないのか。いったいこの人たちは何をしたというのか。家族を亡くした人だっているだろう。そんなことを想像するだけで本当に心がいたむし私たちが今こうして元気に平和に暮らせていることはあたりま

えではないから今この暮らしをできていることに感謝しないといけないと思った。そして他にも私は色んなものをみた。被爆した方たちの洋服やレンガにうつった人の影。洋服には穴があき、黒く焼きこげたりしていた。普通じゃありえないこの光景。服が焼きこげるなんて火事のなかなどにない限りありえない話だ。本当に熱かったのだろう。だからみんな川や海にいった。こういった服はその当時のことを物語ってくれる。だからこそ私たちは実際に被爆したことのない人たちにこういったものを遺していきその恐ろしさを伝えていく必要がある。こういった場所は、伝えていくためにも本当に大切な場所である。そして他にも平和記念資料館には、被爆した地域の範囲を表す映像や色々な人たちの話もあった。やっぱりこういった場所に行くと「平和」について考えさせられるし今この生活ができているありがたみが分かる。食べ物もお腹いっぱい食べられて友達と仲良く遊べて勉強できて働く場所がある。こういった生活ができているのも被爆した人たちが頑張ってくれたおかげだしたくさんの人に感謝していくべきだと思った。今世界では、戦争している国もある。そういった国にも私たちが手をさしのべることで一日でもはやく平和がおとずれたらいいなと思う。

「平和」とはいったいなんなのか。その答えは人それぞれだ。だが過去の辛い経験をのりこえてきたから今この暮らしができている。それだけは絶対に忘れてはいけない。いつか世界中が平和と思えるときがきたらいいと思う。そのために私たちは毎日感謝して生活していくべきだ。